

中間貯蔵施設に関する専門家会議 委員意見

【開催日】 令和7年2月4日（※書面開催）

【議 題】 土壌貯蔵施設における地下水集排水の放射能濃度測定方法の見直しについて

専門分野	委員氏名	所属・役職	意 見	環境省対応
放射性物質	井上 正	(一財)電力中央研究所 名誉研究アドバイザー	これまでに地下水集排水の放射性物質濃度はいずれも検出限界以下であること、もし漏洩があったとしても浸出水処理施設放流水の測定で対応できることから今回提案の改定で特に問題はないと考えられる。	
廃棄物	(欠)			
減容化	吉岡 敏明	東北大学大学院 教授	(意見なし)	
地質・地下水	川越 清樹	福島大学 教授	常時観測としてのゲルマニウム半導体検出器による測定(月1回)、NaIシンチレータによる連続測定(取り止め)に関して現在までの結果に基づき意見はない。ただ、常時観測とは別に異常出水や震度の大きな地震時等の事象があった場合は、チェックを行うことが望ましいため、現地監視の中で対応願う。	異常が生じた場合や震度の大きな地震時等は、ゲルマニウム半導体検出器による測定頻度を上げること等により、適切に対応いたします。
水 質	佐藤 洋一	元 日本大学 専任講師	本協議に係る測定方法の見直しに関しては、既往の測定値等の経過から判断して基本的に問題はないものとするが、見直しの実施に関しては、関係機関・自治体及び住民等	大熊町及び双葉町に対して、丁寧な御説明を行うとともに、両町が指名する住民が委員として参画する中間貯蔵施設環境安全委員会においても、丁寧

専門分野	委員氏名	所属・役職	意見	環境省対応
			への十分な説明が必要と考える。特に、地元については、「知らないうちに測定方法が簡素化されていた。」などの誤解が生じないように十分に説明・周知願う。	に御説明いたします。
交通計画	吉田 樹	福島大学 教授 兼 前橋工科大学 特任教授	(意見なし)	
騒音・振動	濱田 幸雄	日本大学 教授	(意見なし)	
大気質・悪臭	樋口 良之	福島大学 教授	ロジカルに確認し、地下水集排水について、ゲルマニウム半導体検出器による測定(1回/月)のみ継続して行い、NaI シンチレータによる連続測定を廃止することは、データに照らしても理解できる。 何らかの想定外のことが生じ、浸出水処理施設放流水に汚染が認められた場合には、適宜、地下水集排水についての連続測定を行い、原因究明と対策を実施するものと理解する。	浸出水処理施設放流水に汚染が認められた場合には、事象に応じた測定・分析等により原因究明を行うとともに、必要な対策を講じてまいります。
生態学	木村 勝彦	福島大学 特任教授	NaI の連続測定は何らかの事象が発生した際の経緯の分析に有用なのではないか。連続測定にそれほどの手間とコストがかかるとも思えず、むしろゲルマニウム半導体検出器の方が手間がかかるので、そちらの頻度を下げてもよいかもしれない。	セシウムの土壌への吸着特性やこれまでのモニタリングの実績、今後の事業の推進により遮水工を破損するリスクが低いことを踏まえ、地下水集排水については、ゲルマニウム半導体検出器による1回/月の測定のみに変更したいと考えております。 (コスト比較による見直しではありません。なお、NaI シンチレーターのこれ

専門分野	委員氏名	所属・役職	意見	環境省対応
				<p>までの運用において、放射性セシウムとピークが近い自然核種であるビスマスも検知してしまっている事例が多数確認されていることから、今回の見直しは、管理方法等の改善に繋がることも期待しているものでもあります。）</p> <p>引き続き、日常的な点検に加え、地震等が発生した場合の緊急点検を行うことにより、土壌貯蔵施設に異常が生じないように、適切に管理を行うとともに、地下水集排水のモニタリングにおいて異常を確認した場合には、ゲルマニウム半導体検出器による測定頻度を上げること等により、適切に対応いたします。</p>